

第4章

語順

語順

定番 ①主語 ②述語（動詞） ③その他（時・場所）

Es regnet morgen hier

明日ここで雨が降る

強調 ①強調する語 ②述語（動詞） ③主語

Hier regnet es morgen

ここで明日雨が降る

ドイツ語の語順は述語（動詞）を軸とし、主語がその前後にくれば、あとは融通が利くと言える。まず、述語（動詞）が2節目にくる。そして主語が1節目か3節目にくる。主語以外に強調したい部分があれば、1節目におき、主語が3節目にくる。

定番の語順▶

Es regnet morgen hier. 明日ここで雨が降る

1 主語、 2 述語、 3 その他（時・場所）

場所を強調したい場合▶ Hier regnet es morgen.

時を強調したい場合▶ Morgen regnet es hier.

述語（動詞）が必ず2節目にきて、主語が1節目か3節目にくるのが原則。

また、動詞が1節目にくれば、疑問文か命令文になる。疑問詞があれば、動詞が平叙文と同じく2節目にくる。

nicht の位置

否定の不定冠詞 **keine – keine – kein** は名詞のみに使い、常に名詞の前につくが、動詞、形容詞、冠詞等を否定するためには **nicht** を使う。

まず、何を否定するかが大事である。全文否定の場合は、**nicht** が 1 番最後にくる。部分否定の場合は、否定するものの前にくる。

例▶ Meine Tante kommt morgen nicht.

全文否定　叔母は明日来ない

Meine Tante kommt **nicht** morgen, sondern heute.

部分否定　叔母が来るのは、明日ではなく、今日だ

否定されるのは全文ではなく、**morgen** のみ。

また、**nicht** を使うか、**kein** を使うかは、意味の大きな違いをもたらす。

例▶ Ich trinke das Bier nicht.　私はこのビールを飲まない

nicht は冠詞の **das** のみを否定するが、名詞の **Bier** を否定しない。

つまり、他のビールは飲むかもしれない。

Ich trinke kein Bier.　私はビールを飲まない

kein は名詞の **Bier** を否定し、ビールはそもそも飲まないという意味になる。

動詞と目的語の関係として、動詞と 1 番近い関係にある語が最後にくる。また、直接目的語（4 格）が間接目的語（3 格）より後にくる。分離動詞の接頭辞が文の最後にくるのも、こうした理由なのである。

例▶ Ich kaufe dir ein Eis.　私はきみにアイスを買う

dir は 3 格の間接目的語で、**Eis** は 4 格の直接目的語、後者が通常後ろにくるが、もし「きみに」と強調したいときは、**Ich kaufe das Eis dir (nicht ihm)** 「私はこのアイスをきみのために買う（彼のためではない）」という言い方もできる。

形容詞と冠詞が名詞の前につき、冠詞と形容詞と名詞がある場合は、冠詞・形容詞・名詞という順になる。前置詞も常に名詞の前にくる。

▼チェック問題

次の語を挿入して文を完成させる場合、最も適切な箇所はどこか。

1 – 4 から選び、その番号を選びなさい。

「mir」

Papa, kannst (1) du (2) zehn Euro (3) geben (4), bitte?

▼解 答

2

「パパ、10 ヨーロをくれないか？」という文の中で、通常3格の間接目的語 **mir** は主語の後で、4格の直接目的語 **zehn Euro** の前にくる。

第5章 前置詞と格支配

前置詞

前置詞は、場所、移動、時点や期間などを表すために名詞の前に置く語である。まず、移動と行動の場合の使い方を見てみよう。

(1) in 「～中、～へ」

移動を表す場合は4格と一緒に使い、ある場所での行動や状態を表す場合は3格と一緒に使う。また、inは男性名詞と中性名詞の3格の語尾の-mと合体し、imになることが多い。4格もまた、inが中性名詞の語尾の-sと合体し、insになる場合が多い。inは「中に入る」というニュアンスがあるので、建物や海などの場合は勿論のこと、家々、山々、木々に囲まれているという考え方で町や山や森の場合にも使う。

(2) an 「～のところ、～の側」

建物等の中には入らず、その「側に、～のところに」という意味で使われる。anも男性名詞と中性名詞の3格の語尾の-mと合体し、amになり、4格の中性名詞の語尾の-sと合体し、ansになる場合が多い。

(3) zu 「～へ、～のところに」

zuもin(+4格)と同じような移動を表す。男性名詞と中性名詞の3格の語尾の-mやzumと合体する。意味にはわずかな差があり、inが「～の中に」で、zuが「～のところへ」と言える。例えば、in den Bahnhof gehenとzum Bahnhof gehenは、両方「駅に行く」という意味だが、前者は「駅舎に入る」、後者は「駅まで行く」という些細なニュアンスの相違がある。文法的には大きな相違が存在し、zumは移動の場合も3格を伴う。

(4) auf 「～の上に」

auf は山など何かの上にのぼる場合は勿論、市場やグラウンドなど、つまり屋根のない場所や、催し物の場合も使う。3格の語尾-m と合体することは口語に多いが、書き言葉ではない。中性名詞の4格の-s が aufs と合体する場合はたまに書き言葉にもある。

| 前置詞 | 3格 | 4格 |
|-----|--|--|
| in | in der Schule sein (学校にいる) | in die Schule gehen (学校に行く) |
| | in dem / im Garten sein (庭にいる) | in den Garten gehen (庭に行く) |
| | in dem / im Büro arbeiten (事務所で働く) | in das / ins Büro gehen (事務所に行く) |
| an | an dem / am Fenster sitzen (窓際に座っている) | an das / ans Fenster gehen (窓際に行く) |
| zu | zu der / zur Universität gehen (大学に行く) | |
| auf | auf dem Fest tanzen (お祭りで踊る) | auf das / aufs Fest gehen (祭りに行く) |

他の前置詞、hinter (後ろ)、neben (となり)、über (上)、unter (下)、vor (前) zwischen (の間) も上記の表と同じ。-m か-s と合体することも口語の場合にはあるが、書き言葉の場合にはほとんどない。

(5) nach (～へ、～に)

nach は地名（都市と国：nach Berlin, nach Japan）と Hause（家に帰る：nach Hause）と方角（北へ、左へ：nach Norden, nach links）の場合に使う特殊な使い方の前置詞である。

また、「家に帰る」、「家にいる」という言い方は、極めて簡単である。冠詞や所有冠詞 mein などは一切必要なく、Hause（自宅）だけを用い、移動の場合は nach、状態の場合は zu で表す。

Ich gehe jetzt nach Hause 私は今家に帰る

Sie ist heute nicht zu Hause 彼女は今日留守だ

また、「家」は das Haus で、-e がない。

(6) bei (～のところ、～の近く)

Bei は「～の近く」、例えば Potsdam bei Berlin（ベルリンの近くのポツダム）の他に、会社名や人の家の場合に使う。

Peter arbeitet bei Siemens. ペーターはシーメンスで働いている

Wir übernachten heute bei meiner Schwester Paula.

私たちは今日姉（妹）のパウラのところに泊まる

(7) その他の前置詞

4 級で問われる前置詞は場所や移動を表す語の他に、以下のものがある。

durch 「～を通って、～に通じて」

常に 4 格支配。

例▶ Er kommt durch die Tür. 彼はドアから入ってくる

für 「～のために、～にとつて」

常に 4 格支配。

例▶ Hier ist ein Geschenk für dich. ここにあなたのためのプレゼントがある